

地域経済季報

(令和4年1～3月期)

総評

今回は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う「まん延防止等重点措置」が島根県内全域に発出されたことにより、幅広い業種で多大な影響を受けることとなった。観光関連産業においては、人が動かない冬季と重なったこともあり、観光、ビジネスを含めて需要が急激に減少する結果となった。とりわけ、飲食業に対しての時短・休業要請が為され、協力事業者に対して協力金が支給された一方で、外食産業向けに食材や物品等の卸売を行っている事業者が対象外となると、突然の需要減少に深刻な打撃を受けた。建設業においては、原材料や原油価格の高騰に起因する建築資材の高騰、製造業においては、慢性的な世界的な半導体不足が続き、さらには自動車販売や家電等の関連する小売業等においても、顧客からの需要に供給が追いつかない歯がゆい状況が続くなど外部環境に改善の兆しはみられない。来期は、まん延防止等重点措置が全国で解除されたことを受け、景気の反転攻勢を期待するが、「旅行や会食をしてはいけない」という雰囲気や国民の間に広がる「コロナマインド」からの脱却が不可欠となる。そうした状況を打破するために各府県には思い切った政策や財政出動を期待する。

	前期状況 (10～12月期)	今期状況 (1～3月期)	来期見通し (4～6月期)	調査事業所のコメント
建設業	→	→	→	今回は、建設資材の不足及び値上がりやエネルギーの高騰により、建設コストが高止まった。また、資材の納期遅延により工期が長引くケースもあった。これらにより、収益を圧迫するケースも見受けられた。来期は、公共工事は公共施設の改修工事や災害復旧工事が予定されている。民需の一般建築は新型コロナウイルス感染症拡大の収束の見通しが見えないため建築設備投資は弱含みである。住宅建築は多少落ち込みはあるもののマンション建設、分譲宅地など堅調に推移するものと思われる。
製造業	→	→	→	今回は、引き合いに回復が見られる中、半導体や部品不足が解消されておらず単価の高騰、納期の長期化が続いている。材料の高騰は広範囲に及び、エネルギー価格は世界情勢も影響し高値水準となり、収益が圧迫されている。来期は、材料やエネルギーの高騰は先が見えず、不安定な状況が続く見通し。営業活動や商談会による新規開拓に取り組んでいきたい。
卸売業	→	→	→	今回は年度末でありながら長引く感染症と出口が見えない対策方針による消費マインド冷え込みが影響し盛り上げがらず、低調に推移。来期は出口の見えない感染症の影響に加えて、原油高や戦争の影響による原材料高によってメーカー側の大幅値上げが予想され、さらに消費が抑制されることが見込まれる。
小売業	衣料品	→	→	今回は新型コロナウイルス感染症の急拡大を受け、島根県もまん延防止等重点措置の適用を受けたことが影響し、1月中旬以降の集客がかなり落ち込み、過去最悪レベルの集客もあった。来期はまん延防止等重点措置の解除によるため、回復に期待するが、国外情勢、円相場の変動による原価等の上昇の影響が出ることを懸念。
	家電	→	→	今回は、新型コロナウイルス感染症により世界的な半導体不足が続いていることもあり、一部製品の入荷見通しが立たないなど小売店にも大きな影響が生じた。新生活等需要も低調な推移となるなど依然として厳しい状況が続く。来期は、同感染症の感染拡大状況によって、メーカーの協力が得られない場合は展示販売会の開催が困難となることに加え、世界的な原油高など懸念材料が多いことから厳しい状況が続くものと思われる。
	自動車	→	→	今回は、新型コロナウイルス感染症により世界的な半導体不足の影響などにより、前年同期比登録台数は横ばい。中古車市場は、新車の長期化による高年式中古車の引き合いが高まっているものの、供給量は足りていない状況が続いている。来期については、オミクロン株の感染が拡大しているほか、部品不足が長期化しており不透明な状況により、引き続き厳しい状況が続くものと思われる。
	総合量販店	→	→	今回は、数年前に初売り前から店外に行列ができるなど出だしは好調であったが、1月中旬以降、まん延防止等重点措置が適用されたことから来店客数は低迷し、衣料品や食品部門は引き続き非常に厳しい状況に置かれた。寝具・ブランド化粧品等の高額商品は比較的好調を維持。催事も、感染対策を施し大きな混乱はなく実施された。来期は、万全の感染対策のうえGW期間恒例の大型催事を計画しているため、早期に3回目ワクチン接種が行き渡り多くのお客様に来店いただくことに期待。
サービス業	スーパー	→	→	今回は、感染症拡大の影響によるまん延防止等重点措置の影響もあり、下降気味であった内食需要が中旬頃より再度上昇傾向に転じた。原油価格高騰の余波を受け、食品についても値上げの動きが目立つようになってきた。今後も感染状況により消費者心理が短期間で変化する可能性があり、来期も不透明な状況が続く見通しである。
	特産品	→	→	今回は、まん延防止等重点措置の発令による来客数の減少により、1月～2月の売上は低迷した。まん延防止措置解除後は、土日祝の県外観光客が徐々にではあるが増加している。また、ネットショップでの売れ行きが好調であり、メディアやSNS等でも取り上げられた商品に関する問い合わせも多く頂くことから、当地特産品への需要増が窺える。来期は、花見シーズンやGo toトラベルキャンペーンの再開による来客数増加に期待。
	飲食	→	→	今回は、年明けからオミクロン株の拡大により一気に業績が暗転。まん延防止等重点措置発令により、協力金が見られるものの営業時間や酒類の提供が制限され、再び休業に追い込まれる店舗も多々見られた。一部でプレミアム飲食券の駆け込み需要などが見られただけ以外は、感染者数が止まりて推移し、飲食店の利用人数も制限されたため、送別会等の利用も減り、厳しい状況が続いた。来期も感染状況に大きく左右されるが、落ち着けば観光客や地元客の飲食店利用の回復に期待。
	旅館・ホテル	→	→	今回は、年明けにまん延防止等重点措置が発令され、人が動かない冬季と重なったこともあり、観光や卒業旅行、ビジネスも含め、宿泊客数は急激に減少した状況となった。#We Love山陰キャンペーンも動きは悪く、宿泊客数の増加にはつながらなかった。来期は、全国的にまん延防止措置が解除となり、回復期を迎えてGWは本格的に動き出すと予測。Go toトラベルキャンペーンの再開と効果にも期待。
	運輸・旅客	→	→	今回は、運輸業では前年の貨物取扱量落ち込みの反動増があるものの、引き続き厳しい状況が続いている。旅客客数は12月が好調だった一方、1月以降のオミクロン株の影響による落ち込みが激しく厳しい状況となった。3月に入り観光客のタクシー利用が少ずつ見られるようになり、来期は#We Love山陰やGo toなどのキャンペーン再開による需要増に期待。

※売上の前年同期比について → → → により表しています。